

イラン・カラジ市における、バリアフリーまちづくり研修

イランイスラム共和国の障害者バリアフリー支援事業

2012年度

NPO法人 イランの障害者を支援するミントの会(ミントの会)

<http://www.mint-assist.com/indexjapan.html>

業務概要

目的

NPO法人ミントの会では、この数年日本で寄付を受けた、障害者が使用する車いす及び電動ベッドをイランに送り、障害者団体を通して贈与してきたが、行動・移動のツールを手に入れたにもかかわらず、障害者はバリアの多い街に出ていくことができないため、バリアフリーまちづくりの普及活動を行うこととした。その第1歩として、国と自治体のバリアフリー担当職員のバリアフリーまちづくり研修を開催した。

概要

開催場所はテヘランの西20kmに位置するカラジ市（アルボルス州 州都、人口約200万人）。研修参加者は福祉省のカラジ事務所及びカラジ市役所職員のバリアフリー担当者21名と障害者団体メンバー2名、スタッフ8名。研修は2012年6月17～20日の間の3日間。

事業スキーム

NPO法人ミントの会が、かながわ国際交流財団の「かながわ民際協力基金」の助成を受けて実施した。アークポイントはバリアフリーまちづくり研修・ワークショップの専門家としてNPO法人ミントの会から研修の企画・運営を受託し、カラジ市で「バリアフリーまちづくり研修」を実施した。

バリアフリーまちづくり研修の概要

第1回研修

テーマ① 日本のバリアフリーまちづくりの紹介

福祉のまちづくりから現在に至る歴史、法律及び条例等の制度、バリアフリー整備基準の概要、面的な整備の取組み、失敗事例など、バリアフリー技術とバリアフリー整備の制度の概要を紹介した。

テーマ② 視覚障害者誘導用ブロックの体験

ISO規格の誘導用ブロックを日本から持参し、アイマスクを付け、白杖で確認しながら廊下、階段で体験し、誘導用ブロックの使い方、効果等を体験した。

テヘランの歩道にはかなり以前から誘導用ブロックが敷設されているが、視覚障害者が単独歩行で使える形状ではなく、敷設も適切とは言えないことから、バリアフリー担当の職員に体験して頂いた。



第2回研修

テーマ リハビリ施設・病院へのアクセス道路の歩道について、車いす体験でまち歩きワークショップ

約500mのマーハン通りの歩道を、車いす使用者と車いす体験をしながら歩き、歩道内の穴や急勾配の歩道、ビルごとに異なる舗装材の凹凸、狭い歩道、歩車道間の水路に架けられた“すのこ状の鋼製ブリッジ”の危険性、店舗入口の段など、車いすでの歩行の問題点について、体験を通して実感した。その後、グループ作業で道路の図面に問題点・課題点を整理した。



第3回研修

テーマ マーハン通りのバリアフリー改善方法についての提案の検討

歩道のバリアフリー整備についての提案をまとめ、各班から発表した。

提案の主なものは「バリアフリー整備基準や実施させる制度の整備が必要」「民間の事業者には守らせるための研修」「指導体制」などの制度整備、「電柱の移設、ブリッジのバリアフリー化」などの整備提案が出された。

